

両側内胸動脈を用いた 多枝小切開冠動脈バイパス術 (MICS-CABG)を開始しました

左肋間開胸による冠動脈バイパス術を2012年より開始し、今年で通算100例になりました。弁膜症MICSと同様胸骨切開を回避できるため、美容上の利点のみならず、早期社会復帰ができ、何よりも一般的に1-3%に発生する縦隔炎のリスクがないという利点があり、症例を選んで行っています。

最近では左小切開創から右内胸動脈採取も可能になり、両側内胸動脈を用いたMICS-CABGも行っています(世界的に両側内胸動脈を用いたMICS-CABGを行っているのは数施設です)。

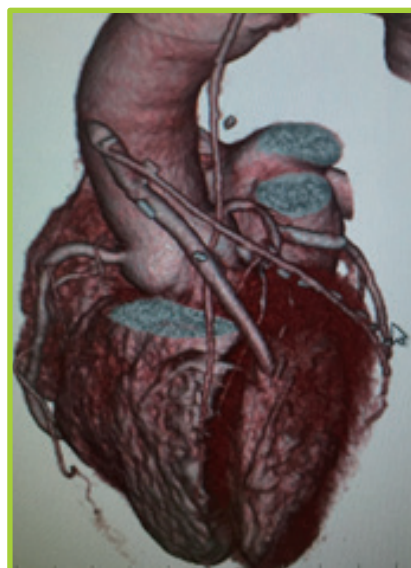
原則的には3枝までのバイパス症例としていますが、循環器内科医と相談しながら、カテーテルインターベンションとのハイブリッド治療も行っており、多枝MICS-CABGは冠血行再建の新しい治療戦略として世界的に注目を集めつつあります。

心臓血管外科副院長
坂口 太一

完全動脈グラフトによるMICS-CABGの例



2枝 両側内胸動脈



3枝 両側内胸動脈+撓骨動脈



MICS-CABGの手術例